

平成 22 年度第 1 回国際交流事業推進連絡会（会議録要旨）

1. 開催日時 平成 22 年 7 月 2 日（金） 午前 1 時 30 分～
2. 場所 練馬区役所東庁舎 501 会議室
3. 出席委員 12 名
4. 欠席委員 5 名
5. 事務局 2 名
6. 会議録（要旨）

(1) 前回の報告

資料『平成 21 年度第 3 回練馬区国際交流事業推進連絡会』開催結果』による
事務局説明

(2) 平成 21 年度事業結果説明

資料「平成 21 年度練馬区国際交流事業実施結果」による事務局説明

(3) 意見交換

<文化国際課長>

まず、旧光が丘第 5 小学校の今後のスケジュールについて簡単にご説明させていただきます。今年の 1 月に光が丘地区の学校跡施設の活用基本計画が策定されまして、それに基づきまして 3 階部分を文化芸術と多文化共生のための施設として活用することが決定されました。学校から用途の変更を行うということではなかなか難しい面もありまして、今のところ目標としては平成 24 年度中の開設を目指して準備に入っております。

<座長>

それでは、意見交換に入りたいと思います。前回の連絡会でも友好都市との交流について、区民訪問団などでたくさんの区民に友好都市に行っていただくためには内容に配慮が必要という意見がありました。これについて何かご意見はございませんか。

<国際交流係長>

今年度は友好都市について広く区民の方に知っていただくのと、区民親善訪問団の宣伝も兼ねて、当連絡会の委員でもある K さんに講師をお引き受けいただきまして、海淀区を紹介する講座を今月 19 日に開催いたします。また 7 月 27 日から 8 月 8 日にかけては本庁舎のアトリウムで海淀区を紹介する写真展を開催したいと考えております。海淀区は中国有数の教育都市で、北京大学や清華大学、それ以外にも中国を代表する大学や研究機関がたくさんあります。また幼稚園のころからの教育にも熱心なので、そうした教育施設も見たいと思います。そのほか世界遺産となっている頤和園という人工の公園があるなど大変歴史のあるところですよ。また海淀区には中関村というところがあって、そこは中国の先進技術の中心地となっています。そういう意味では大学や幼稚園などの教育の部分、また歴史や文化の面、それから新しい最先端の中国の姿というものを海淀区では見ていただけたらと思います。こうしたことを講座や写真展では区民の方にアピールしていきたい

いと思います。

<座長>

私も協会ができてすぐの頃にイプスウィッチに参りまして、その後 1 回海淀区にも参りました。現地での交流だけでなく、こちらに戻ってきてからその経験が活かされないと意味がないと思います。昔も現地で交流した方が練馬でグループを作ってしばらく活動したことがありました。まだそのグループは活動されていますか。

<国際交流係長>

はい、国際交流クラブとして活動いただいております、現在も国際交流のつどい等でご協力いただいております。

<座長>

現地へ行った方の報告などはどうなっていますか。

<国際交流係長>

発表会をして区民の皆様の前でお話していただくと、なかなか難しい状況で、現在は報告書ということで文書で作成していただいております。

<座長>

図書の寄贈というのは毎年やっているのですか。

<国際交流係長>

はい、これまで海淀区とイプスウィッチと毎年交互に行ってきました。昨年につきましてはイプスウィッチの順番だったのですが、友好都市提携 15 周年に際してイプスウィッチが日本式の茶室を作りましたので、お茶の道具を練馬区から寄贈いたしました。そういうこともあって昨年は図書の寄贈は行っておりません。海淀区やイプスウィッチからは不定期ですが図書を頂戴しております、外国語の図書を多く扱っている小竹図書館で所蔵、公開しております。

<座長>

これから新しい施設ができれば、そういった図書も展示できますね。交流については、やはり、これまでの話でもあったように今年はスポーツを主目的とするといったような、何か目的を持った交流をしていくということでよろしいでしょうか。

つづきまして、ボランティア日本語教室ボランティア養成講座が昨年からはまったとの報告が事務局からありましたが、特に関係しておられます I 委員はご意見ございますか。

<I 委員>

私の教室について言わせていただきますと、新しく 3 名の方に 4 月から活動していただいております、教室も大変活性化しております。今後はどういう形になりますか。

<国際交流係長>

今年度以降も引き続き継続していきたいと考えております。各ボランティア日本語教室さんで講師が足りないという状況は常に続いているのですが、毎年この事業を継続していくためにも、だいたい受講生は 20 名くらいでやっていきたいと思います。前回の課題とし

てマッチングの期間、各教室に入る受講生の方と教室側との接触の機会が少なかったというお話もいただいていますので、今年度は教室見学の時期を早めるなどして対応していきたいと思います。

<座長>

C委員は何かございますでしょうか。

<C委員>

新しく来た学習者が1回2回でやめていってしまうという問題がなかなか解決できないですね。ボランティア教室も学習者中心でないといけない。学習者のニーズが何なのかということをやうまく捉えられないという問題ですね。例えば日本語がゼロでスタートの方、こちらから日本語で話しかけても当然通じないわけですからコミュニケーションが成り立たない。そうするとニーズが何かということを実然1回来たくらいでは分からないわけですね。こちらは来て欲しいのだけれど一度雰囲気を見て来なくなってしまう。これはテキストを中心としてスケジュール的に進めることに抵抗があるのだと思います。一人ひとりのためにやっているはずなのに教室の運営上そうはいかない。これは各教室が抱えている問題だし、ボランティアの抱えている問題だと思います。

<G委員>

私は外国語相談員ですが、相談員のところに日本語を勉強したいのですがと相談してくる外国人の方はたくさんいらっしゃいますが、その時にご案内をする段階でその方のニーズにあった教室を紹介することが出来れば、すぐにおやめになるということはないのだろうと思います。しかし17の教室がありますが、どこの教室を案内したらいいのか分からないというのはあります。

<I委員>

既習者の方だと、学習者同士で情報交換をしながら、いくつかの教室を駆けもちして、テキストをしっかりとやる教室や、会話中心の教室などを使い分けている方もいらっしゃいます。そうした情報交換の場として教室があるのもいいかなと思います。

<F委員>

私も相談員ですが、ボランティア教室の問い合わせはよくありますが、どの地域、時間帯がいいかなどの本人の希望を聞いて案内をしています。ボランティア教室の周知なのですが、日本に住んでいる外国人がボランティア教室があることを知らないことがあります。区役所に来れば勿論お教えできますが、区役所に来る機会がない人も多い。逆にワーキングホリデーで来ている人の方が情報をよく知っていることもあり、情報の差を感じています。

子供についてはどうでしょうか。

<C委員>

子供教室は区でやっているもの、同歩会などがありますが、子供の場合は学校の教科と密接に関連していて、日本語だけを教えるということではないと思います。高校受験をフ

フォローしてほしいというニーズは多いけれども、すべてにこたえられない。進学情報などは親も分からないですし、高校進学相談会などは何ヶ国語かでやる必要があると思います。例えば、帰国者のお子さんにはどこの学校が有利だとかいうこともあります。そういったことはこども教室には限界があると思います。教育委員会や実際に教師を退職された方を講師に呼ぶとか、そういったフォローが必要になってくると思います。

<座長>

それではいつも話題になっております教育委員会の連携については、何かございますでしょうか。

<E 委員>

教育委員会との連携の話になると思うのですが、受験生、受験については教育委員会の範疇だと思います。ボランティアには限界があります。昔、こども教室で受験生をもっていた時は必死で情報を集めました。昔は飯田橋のボランティアネットワークの建物で外国人のための進学相談会をやっていました。公の機関ではないので難しいとは思いますが、そういう情報を本来ならば教育委員会から外国人生徒に伝えて欲しいと思います。

<J 委員>

ボランティア活動をなさっていて、子供の進路の問題は必ず出てくると思いますが、実際にはどのように対応されているのでしょうか。

<E 委員>

各ボランティアが個別に対応することになります。

<I 委員>

親の方から相談されることもあります。やはりボランティア個人レベルでしか解決できない状況です。

<国際交流係長>

昨年から東京都で外国人の中学生の進学についての相談ができる部署ができました。私どもとしましても、子供達やご両親から相談があった場合には、また各ボランティア日本語教室にも情報提供をしようと思います。ただE委員もおっしゃるように進学については、ボランティアの方が背負うのは無理のあるお話だと思います。

<J 委員>

私が昔現場にいた時には、保護者が日本語が全く分からないというケースで、教育委員会にお願いをして通訳を間に入れてもらい、生徒、保護者と進学相談をしたことがあったのですが、今もそれができるのでしょうか。国際交流係にいらっしゃる外国語相談員に通訳していただくことなどはできるのでしょうか。

<文化国際課長>

ボランティアさんに現地に行って通訳をしていただく制度がございます。

<I 委員>

それは個人ベースでお願いしてもやっていただけるのですか。

<国際交流係長>

基本的には登録していただいているボランティアさんを紹介するというので、区の責任と限界ということもあって、学校も含めた区の窓口からの要請を受けて派遣をすることになります。ただ、保護者の方から国際交流係に相談があれば、こちらから学校側に問い合わせて、通訳が派遣できるというお話をすることは可能です。

<H 委員>

実はそういう時にお母さんがちゃんと日本語で相談できるようにするというのが、ボランティア日本語教室の目的なんです。そういう時にお母さんが日本語が通じなければ情報を得ようという気にはなりません。やはり今は親が情報を得ることができないと困ります。もちろんテキスト中心にやっているといろいろな見方があると思いますが、日本語が分からなければそこまでは絶対にいきません。だから日本で暮らす、日本で子供を育てるといってお母さんには本当にしっかりと日本語を覚えてもらいたい。出来たら読めるようになってもらいたい。それが教室の最終的な目標です。

<座長>

それから国際交流のつどいの話にまいりますと、これがマンネリ化してきているのではないかという話もありましたが、昨年度はどんな形だったでしょうか。

<国際交流係長>

昨年は踊りを中心として行ったということがあります。これまでと大きく変わったということはないのですが、そんな形で少しずつ工夫をしております。また一昨年、昨年と抹茶サービスで日本の文化を体験していただいております、これが外国人の方にすごく好評で今年度以降も続けていこうと考えているところです。

<座長>

最後に旧光が丘第五小学校の多文化共生施設のことに关しましては、この後実際に現地を見ていただいた上で、次回の連絡会で議論していただければと思います。それでは全体を通しまして何かご意見はございますでしょうか。

<B 委員>

国際交流サロンについてですが、最近はどんな感じなのでしょうか。

<国際交流係長>

サロンは今年度に入ってからさらにお客さんが多くなっています。4月、5月と40名近くの方にお越しいただきました。参加者は日本人の方はだいたい7割の方が常連の方、外国人は3割が常連の方で、あとは毎回入れ替わります。日本に来たばかりの外国人の方などは、ここに来て日本語の練習をして、友達が出来てくると来なくなるということが多いようです。

<座長>

それでは旧光が丘第五小学校の視察もごさいますので、本日はここまでとさせていただきます。みなさま大変ありがとうございました。 以上